資料−5

江崎協議員

大泉の大気環境変化

外環ができると街はどのように変化せざるを得ないのか、世田谷通りインターチェンジが計画されている地域の住民としては大変気になることで、これまで大泉周辺に度々足を運んでみたり、周辺にお住まいの方々にお話を伺ったりしてきました。その中で大気環境の変化がよく分かる資料をいただきましたのでご紹介します。

大気汚染測定運動練馬実行委員会では28年前から毎年、6月の環境週間に合わせて練馬区内の約700ヶ所で二酸化窒素（NO_2）の一斉調査をされています。添付した資料は、2000年に出されたニュースで、外環開通前の1984年と開通後の1999年を比較したものです。

特に驚いたのは、外環に近い場所だけでなく、街全体の大気環境が悪化していることでした。インターチェンジに限らず車の出入りが予想される地域では同様のことが起こる可能性があります。

大気汚染と健康の関係については、東京都の大気汚染健康影響調査「健康監視モニタリング調査（S62～H10）」や「学童モニタリング調査（H6～H11）」でも、交通量が多く、大気汚染物質である二酸化窒素濃度と浮遊粒子状物質濃度が高い地区の住民は、それらが低い地区の住民に比べて、「喉がいがらっぽい」「目が痛い、しょぼしょぼする」等の症状を訴える率が高く、肺機能値も低い傾向があり、大気汚染が私達の健康に何らかの影響を与えていることが示唆されています。

また、NO_2は大気中で反応して酸性雨の原因にもなっています。

大泉はもちろん、今後、車の出入りが予想される地域で、大気汚染の悪化による様々な影響が心配されます。

以上／2004.4.20 江崎美枝子

添付資料：「大気汚染測定運動練馬実行委員会ニュース」2000，大気汚染測定運動実行委員会

大気汚染測定運動 練馬実行委員会ニュース

2000. .5.18
No.5 2 ―②

大気汚染測定運動
練馬実行委員会
連絡先
練馬区 [redacted]

次の時代に残せる環境を　あなたの参加でとりもどそう

―環境週間・区内一斉二酸化窒素（ＮＯ２）測定日―

6月1日午後6時――6月2日午後6時

第２４回練馬区大気汚染一斉測定にご参加を！

測定の努力を積みかさねましょう

〝きれいな空気をとりもどそう〟と皆さんと一緒に続けてきた練馬区内一斉ＮＯ２測定運動も今年で二十四回目になります。

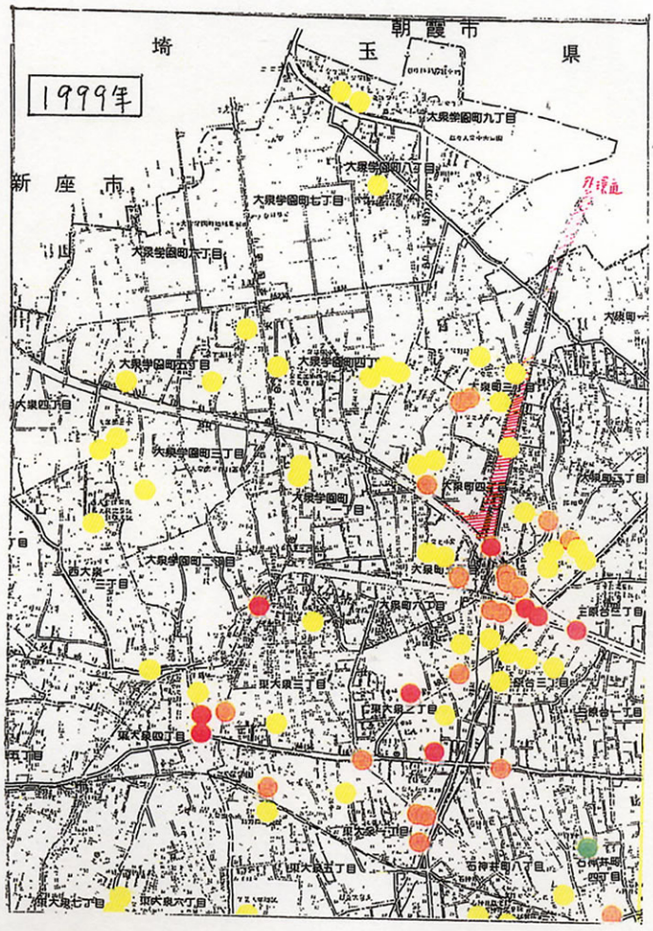
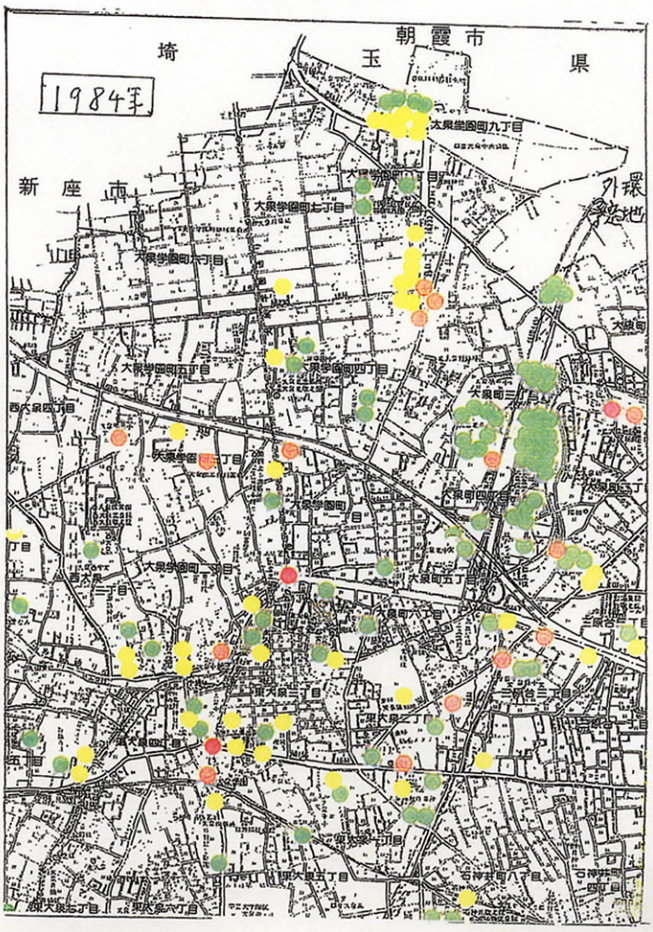
下の二つの図は測定結果を現した汚染地図から大泉地域を抜粋したものです。右図は外環がまだ開通していなかった一九八四年のもの、左図は開通後の九九年のものです。

凡例を見ながら比較してみてください。大型道路ができると確実に汚染が進むことがよくわかります。

今、外環を更に南進させようという動きがあります。九八年三月、都、建設省、関係七区市による「地下構造（ボックス構造等）」を有力な策とした「東京外かん環状道路とまちづくりに関する連絡会」が設置されましたが、計画道路沿線住民の声も聞かず一方的に進められています。

地下・半地下方式にしても、大気汚染、騒音、振動、水脈などの環境破壊が生ずることは明らかで、谷原交差点をみてもわかるように交通渋滞の解消にはなりません。

昨年十月、石原都知事が武蔵野・練馬の現地を視察、都・建設省から関係沿線住民と話しあいをしたいという呼びかけがあり、四月に話しあいの場をもちました。関係住民は、原計画を白紙に戻し、沿線住民、行政、環境を考える人、車をつくる人、道路を利用する人などなどで道路建設の必要性の有無から話しあいたいと願っています。

凡例

- 0.02ＰＰＭ以下……（あまり汚れていない）
- 0.03、0.04ＰＰＭ……（少し汚れている）
- 0.05、0.06ＰＰＭ……（汚れている）
- 0.07、0.08ＰＰＭ……（大変汚れている）